

平成 29 年度 大学院工芸科学研究科博士後期課程 学位記授与式
学長告辞

本日、博士の学位を取得されました皆さん、誠におめでとうございます。
京都工芸繊維大学を代表し、心からお祝い申し上げます。また、皆さんを
これまで、支え、育ててこられたご家族の皆様をはじめ、本日駆けつけて
いただいた関係者の方々に対し、心からお祝いを申し上げたいと思います。

京都工芸繊維大学は、昭和 63 年に大学院を改組して、工芸科学研究科
を設置し、これまでに、1067 名の博士号の学位を授与してまいりました。

本日皆さんには、課程博士第 862 号から 886 号まで、論文博士第 207 号
の学位を授与いたしました。皆さんの研究業績は本学における学位論文と
して、広く人々に公開され、それぞれの分野における新たな展開のため、
また技術革新や産業創出のために活用されます。さらには、皆さんに続く
後輩の研究のために利用されます。

学位を取得された皆さんには、今後、それぞれの分野において能力を発
揮されることを希望しています。さらに、特定の専門領域で研究テーマを
深く極めることに主眼を置いた研究だけでなく、広い視野に立って、他の
研究者との共同作業を心がけていただきたいと思います。そして自らの研
究や仕事が、どのような学術的な意味をもつのかだけでなく、社会的にど
のような役割をもつのか、社会にどのような影響を及ぼすのか、科学者と
して、技術者として、一人の人間として、考えていただきたいと思います。

今日の学位記授与式にあたり、京都工芸繊維大学が掲げる理念を踏まえ、
「科学と芸術」、「知と美と技」について、また職場のみならず社会におけ
るリーダーシップについて、学術文化の領域における知性と反知性という
立場について、今一度、当事者の立場から深く考えていただきたいと思います。

京都工芸繊維大学の教育研究の柱は「科学と芸術」ですが、科学と芸術をともに究め、深いレベルで橋渡しすることは大変難しいことです。芸術的な営みは、個人的な精神活動とみなされてきましたが、芸術を個人的な趣味の領域から解き放ち、時代を切り開く社会的な力に変換していくためには、科学的思考が有効であると考えます。一方、科学は事実に基づく客観的思考を旨とし、主観的な判断を伴わない営為のように言われることもあります。実際には、感覚や直観的判断、そしてその先にある感動を求めて日々の活動をおこなっていることに留意すべきです。

一般に科学的な成果は、個人の好みや主観によって左右されるのではなく、誰にとっても了解可能であり、説明可能な論証能力をもった普遍的なステートメントでなければならないとされています。大学における学問は、主観的な一人ごとを超えて、不特定多数の人に認められるような普遍性を獲得することが大切です。

単純化して言えば、科学的分野では、普遍的で唯一の真理を求めて研究活動をおこなっていくのに対して、芸術分野や文系の学問分野では、どうでしょうか。文系の学問領域では数式による記述にはなじまない主題、数量化し得ない対象にこそ関心が向けられています。数量的な取り扱いを拒否し、数量化にあくまで抵抗する対象とは、何か。

それはもちろん人間であり、人です。人間あるいは人間が作り出した文化事象、社会現象、歴史などは数式に還元されない多元的な対象であり、実験や再現性にもなじまない事象です。

芸術活動や文系の学問では、非常に重要で理解しがたいことですが、あなたにとっての真理と私にとっての真理は両立することを前提に、時代の制約の中での歴史的事象、地理的制約、といった立体的な視点から文化的事象を比較することが研究活動の前提とされるのです。

皆さんが活躍される人間社会は、複数の価値観が併存する多様性が特徴であり、単一の真理を求める思考法からすれば、時には曖昧であり、時には揺れ動き、明晰な結果が得られないこともあります。しかし人間社会の多様性と豊かさを単純な枠組みに押し込めるような短絡した思考は慎むべきです。実証性や客観性を軽んじ、自分の都合の良いように世界を解釈し、社会の現実を矮小化し、歪めるような反知性主義的風潮には十分に留意していただきたいと思います。

では、多様な価値観が併存する人間社会におけるリーダーシップとはどのようなものであり、我々が求める「テックリーダー」とはどのような人物でしょうか。

本学が求める「テックリーダー」とは、世界のグローバルな現場において、具体的な課題解決能力を発揮できる人物、チームの信頼にこたえて進むべき方向を示すことができる人物のことです。自らの能力によってチームの信頼を得、成果によって尊敬を得られる人物のことです。皆さんは、将来を見つめ、世界を知り、責任をもって勇気ある決断ができる人物を目指していただきたいと思います。

京都工芸繊維大学は、京都高等工芸学校および京都蚕業講習所に端を発する 110 余年の歴史の中で、「知と美と技」を探究する独自の学風を築きあげてきました。私たちはこの栄光の歴史に新たな一頁を加えるべく、豊かな人間性にもとづく技術の創造をめざして技を極め、人間の知性と感性の共鳴を求めて知と美の融合をめざし、修了生の皆さんとともに教育研究の成果を世界に発信していきたいと考えます。

皆さんが、さらなる高みをめざして飛躍されることを祈念してお祝いの言葉といたします。

平成 30 年 3 月 26 日
京都工芸繊維大学長
古山 正雄